

## 悲劇は繰り返すな！

8月30日、午前9時頃、札幌市手稲区の9階建てマンション屋上から、近くに住む市立前田北中学2年の男子生徒（13）が飛び降り、死亡しました。

道警手稲署は、状況などから自殺とみており、前田北中学校では「いじめの可能性があり調査する」としています。

「子どもがいじめを理由に自殺する」というようなことは繰り返してはならない、との思いから、各教育委員会や学校ではいじめ対策に取り組んできたはずですが。にもかかわらず、悲劇が繰り返されることに暗澹たる思いがいたします。

記者会見した前田北中学校の荒沢校長によると、男子生徒は5月以降9日間休んでおり、7月中旬の三者面談の際、「同級生らから陰口をたたかれた」と相談があったとのこと。その後、同校では男子生徒が名前を挙げた生徒を指導、男子生徒とも個別面談を続け、「状況は改善されていたと認識していた」といいます。教師も親も、子どもが抱える悩みに気付きながら最悪の事態を防げなかったことは、大変遺憾なことです。

自殺の原因がいじめであったのかどうか、また、学校としてどう取り組んできたのか、徹底的に調査すべきです。

先月、道教委では、昨年度に起きたいじめの認知件数について、前年度より約37%増の4650件であったという調査結果を公表しています。約4割近くも増えたことに関し、道教委では、「よりきめ細かく把握したことが一つの要因と考えられる」としています。しかし、仮に、道教委の認識のとおりだとすれば、「いままで、各教育委員会や学校が取り組んできたいじめ対策が十分な成果を上げてこなかった」という認識をまず持つべきではないかと思えます。

文科省では、小中高の授業の中で、自殺を予防する指導を導入することとし、具体的な検討を始めたようです。事態はそれ程深刻だということですが、しか

し、各学校ではこれまでも「命を大切にする教育」を行ってきたのです。にもかかわらず、悲劇が繰り返されています。

道教委が行った平成21年度の「活動状況に関する点検・評価報告書」によると、各学校（札幌市を除く）に対し「教職員一人ひとりが、いじめの理解や指導方法などに関する力量を高めることを目指した校内研修を実施しているか」を聞いたところ、実施していると回答した学校が35.9%に止まっています。本来は、全ての学校において、校内全体で共通認識を持っていじめ問題に取り組んでいなければならないはずです。この点からも、学校における取り組みの甘さを指摘せざるを得ません。

各教育委員会、各学校、全ての教職員、取り組む側のそれぞれの本気度が今まさに問われています。（塾頭 吉田 洋一）